

お話大好き



あさの
浅野
あきらの
彬さん
(実践童話の会会長)

Q. 小学生の頃はどんな遊びをしていましたか？



A. 近所の仲間といっしょに野球や三角ベースなどをして遊びました。明德小校区に住んでいたので、鷹谷トンネルのそばの山や長良川にも子ども達だけで行っていました。

Q. 小学校でのエピソードは？

A. 授業が自習になったとき、級友が「おもしろい話をしてくれ」というので、みんなの前で話をしました。それがたいへん好評で、そのうわさを聞きつけた隣のクラスの先生が「そんなにおもしろいなら、ぼくのクラスでもやれ。」ということで話をしました。

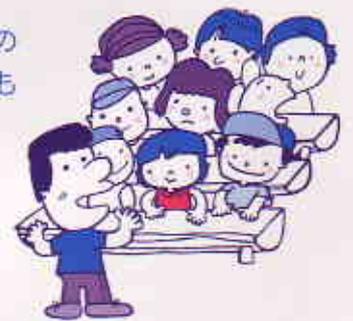


Q. 童話好きになった理由は？

A. 母親が夜、寝る前に読み語りをしてくれたことを覚えています。また、学校への通学途中に市立図書館があったので、世界名作物語や落語全集、1話完結の少年講談調の本（1冊1円だったので、円本といわれた）を借りて読みました。本を読むことが楽しくて楽しくてたまりませんでした。

Q. 童話を語る理由は？

A. 昔話、民話を語ることを通して、子どもの心を引きつける話の仕方を身に付け、子どもの心を育てたいと願っています。
—心育ては語りべに不可欠—



ぎふっ子へのメッセージ

本を読んで楽しむ、本の好きな子になってほしい。
つたえばなしや民話には、先人の願いや生き方が込められています。
郷土に伝わる話を大事にしてほしい。



現在、幼稚園、公民館、学校などで活動をしていらっしゃいます。昭和5年生まれで今年74歳になられます。子どもと一緒に浅野さんの語りを聞きましたが、知らず知らずのうちに引き込まれてしまいました。みなさんにも、ぜひ一度聞いてもらいたいと思いました。

